

乳腺疾患の病態を考える —Aplio iシリーズを用いて—

日時 2017年 2月12日(日) 12:00~13:00

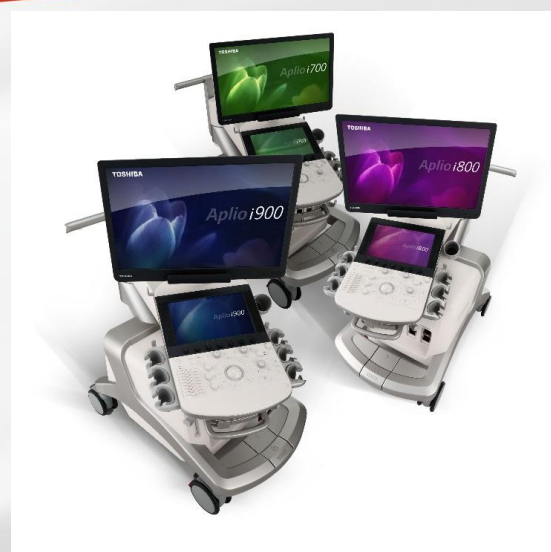
会場 名古屋国際会議場 234会議室

司会

名古屋第二赤十字病院
石神 弘子 先生

講演

独立行政法人 国立病院機構
名古屋医療センター
森田 孝子 先生



乳腺画像診断領域において、超音波検査の重要性は増している。① 検診でのWHOLE BREAST SCANNING、②精密検査での多発病変の存在や病態を理解できる画像を残すこと、③リンパ節転移など病状の進行具合の把握、④良性病変に対し比較に耐えうる画像を残すこと、⑤細胞診や組織診などのinterventionをするときに最も悪性を疑う部位を同定すること、⑥温存術におけるマーキング、⑦化学療法の治療効果判定を行うことである。

Aplio iシリーズでは、プローブの改変によって、根幹的にBモード画質の解像度向上、penetration向上が得られ、今まで見たことのない画像が提供されている。病理像との対比により、さらに病態の把握、理解が進むものと期待される。